



神奈川県は西に大山をはじめとした1000メートル以上の山々が連なる丹沢山地を抱き、東に丘陵地帯が延び、その間を相模川など幾筋もの川が流れる。川は平野を抜けて相模湾へと注ぐが、山からの恵みを運び、途中に豊かな大地をつくった。海、山、川からの恵みが豊かな神奈川には、大昔から人々が暮らし、日本最古となる2万年前の住居状遺構も残る。豊かな大地に様々な歴史が刻まれ、いまでも往時の人々の暮らしがうかがえる。

第3章

海・山・川の 恵みが育んだ 豊かな大地

先史時代の数々の貴重な遺跡 日本最古の2万年前の住居状遺構も発見

写真協力 相模原市 綾瀬市 横浜市 川崎市

相模川を抱く 相模原市は 遺跡の宝庫



相模川は全長約109kmの1級河川。県中部を流れ相模湾に注ぐ。相模原市内には相模川について学べる「相模川ふれあい科学館 アクアリウムさがみはら」も。

史跡田名向原遺跡旧石器時代学習館（旧石器ハテナ館）は全国的にも数少ない旧石器時代をテーマにした施設【住所】相模原市中央区田名塩田 3-23-11【電話】042-777-6371【開館】9:00～18:00（11～3月は17:00まで）

相模原市立博物館では相模原の歴史や自然を総合的に学べる【住所】相模原市中央区高根 3-1-15【電話】042-750-8030【開館】9:30～17:00、月曜他休館、常設展無料 <http://sagamihiracitymuseum.jp/>



田名向原遺跡の住居状遺構は後期旧石器時代末（約2万年前）のもので、現在わが国最古の例とされる。12カ所の柱穴や2カ所の発火跡などが見つかった。



相模川は全長約109kmの1級河川。県中部を流れ相模湾に注ぐ。相模原市内には相模川について学べる「相模川ふれあい科学館 アクアリウムさがみはら」も。

旧石器時代の遺構と縄文の代表的遺跡

相模川に臨む相模原市は先史時代の遺跡の宝庫である。

旧石器時代、約3万5000年前には人が住んでいたと思われ、関東ローム層の赤土からいくつもの石器

や土器などが見つかった。いまでも恵みをもたらす相模川や境川、鳩川周辺での発見が多く、古代から綿綿と続く川と人々の暮らしが偲ばれる。

相模原市を代表する遺構の一つが相模川左岸、相模原市中央区田名塩田にある田名向原遺跡である。後

勝坂遺跡公園内に復元された土置き竪穴住居。公園内管理棟にも展示コーナーがある。入園自由。竪穴住居内の見学は水〜日曜の9:00～16:00



相模川の鮎

相模川はアユ釣りの名所として名高い。6月1日の解禁日を心待ちにしているファンは多く、上・中・下流と三つの地域にわたってアユとの出会いが楽しみ、10月14日までの漁期は各地で太公望たちの笑顔が溢れる。川沿いや周辺には川魚料理店もあるので釣り人でなくても満足できる。「かながわの名産100選」の一つ。



神奈川の地酒

丹沢山系を源とする豊かな水の恩恵を受ける神奈川県では、13の蔵元が日本酒を製造する。相模川や酒匂川の伏流水を仕込み水とし、伝統の製法を守り続けている蔵元だ。趣のある入り母屋の酒蔵を有するところもあり、販売もしているので訪ねてみるのもいいだろう。「かながわの名産100選」の一つに選ばれている。



期旧石器時代の住居状遺構で、日本で発見された中でもっとも古い約2万年前のものである。約40万年前から相模川は相模湾に流れ込み、何万年もかけて相模原台地などの河岸段丘を形成した。田名向原遺跡が位置する段丘もその一つで、川に臨む場所に遺跡があり、人々は遡上するサケやアユなども捕食しながら暮らしていたと思われる。9個の黒曜石製の石器が発掘されたことも大きな特徴だ。黒曜石は鋭く加工できナイフの代わりとなる。関東各地で出土するが、田名向原遺跡のものは長野県の星ヶ塔産であった。遠く離れた土地との交易がうかがわれるが、どのようにして運ばれたかは未だ謎が多く、そ

の予想と研究成果が遺跡公園に隣接する学習施設「旧石器ハテナ館」でわかりやすく解説されている。相模原市南区磯部にある勝坂遺跡も貴重な遺跡である。約5000年前の縄文時代中期の大集落跡だ。大正時代に発掘された縄文土器は立体的な装飾文様や顔面把手で注目され、「勝坂式土器」として縄文中期の目安になっている。同時に発掘された打製石斧によって、この時代に農耕があったことも提唱され、当時の考古学界に議論を呼んだ。起伏に富んだ丘の上の山にあり、樹林に囲まれた遺跡は国の指定史跡として公開されている。縄文時代集落の雰囲気を感じることができるところである。

SPOT



立ち寄り所

国指定史跡 神崎遺跡

相模川下流左岸、綾瀬市南西部にある神崎遺跡は弥生時代後期（約1800年前）の環濠集落。南北103m、東西65mの楕円形に深い溝が巡らされ、東海地方からの集団移住を示す発掘もあり国指定史跡に。資料館も建つ【住所】綾瀬市吉岡 3425-5【電話】0467-77-0841（オーヤヨイ）【開館】9:00～17:00、月曜休館、無料



相模田名民家資料館

田名向原遺跡に近い木造民家の資料館。かつて盛んだった生糸生産の様子を保存された養蚕農家からも学べる。飼育道具や生活用品などが展示され、製糸業を支えた現場を知ることができる【住所】相模原市中央区田名 4856-2【電話】042-761-7118【開館】10:00～16:00、月〜水曜休館、無料（臨時休館もあり）

周囲に豊かな緑や泉がある史跡勝坂遺跡公園では縄文時代中期の大集落の雰囲気が再現され、大自然の中の縄文時代を体験できる。土置きと土置きを併置した竪穴住居2棟が復元されている。



大塚・歳勝土遺跡公園に隣接する展示内容も充実した横浜市歴史博物館【住所】横浜市都筑区中川中央1-18-1【電話】045-912-7777【開館】9:00～17:00、月曜休館【料金】一般400円



神奈川の考古学の殿堂、埋蔵文化財センター。講座も随時開催【住所】横浜市南区中村町3-191-1【電話】045-252-8661【開館】9:00～17:00、土日祝休館（第2土曜開館）(写真提供:神奈川県埋蔵文化財センター)

横浜市街にある 縄文・弥生・古墳 時代の遺跡群

三殿台遺跡には三殿台考古館が建ち、展示のほかには火おこしや、勾玉、土偶、土器づくりなどの教室も随時開催している。



大塚・歳勝土遺跡は、弥生時代の環濠集落と、近接した方形周溝墓群（墓地）が同時に見学できる貴重な遺跡。



標高約55mの小高い丘の上にある三殿台遺跡。縄文から弥生、古墳時代のムラの跡に住居が復元され臨場感を醸している。

隣接する横浜市歴史博物館では遺跡の詳細のほか、先史時代から現代に至るまでの横浜の歴史を学ぶことができる。

柱建物が復元されている。地下鉄センター北駅近くの遺跡群で、弥生時代中期の環濠集落・大塚遺跡と、方形周溝墓群の歳勝土遺跡が見学できる。ここでは竪穴住居や堀立

遺跡公園も見逃せない。港北ニュータウンの真ん中、市営

弥生時代のムラでは大塚・歳勝土

遺跡公園も見逃せない。

特に弥生時代の住居は170軒近くと、当時のムラの様子を知る上でも貴重な遺跡。資料館の考古館では

遺跡に関する資料展示や様々なイベントも随時行われている。

明治時代、小高い丘の上に貝塚が発見されたことから調査が進み、縄文、弥生、古墳時代にわたる270

もの竪穴式住居跡が発見された。

横浜市にも先史時代の遺跡が残る。磯子区には縄文時代から古墳時代に及ぶ大規模な集落遺跡・三殿台遺跡が伝わる。

弥生時代のムラの 様子を知る遺跡



津久井湖は昭和40(1965)年のダム建設で、相模川が堰き止められてできた湖。水力発電や水がめとして相模川の恵みを県内にもたらしている。

SPECIALTY

名物



津久井のうどん

津久井の地粉や県産小麦など、主に地元の原材料を使い伝統製法でつくられたうどんは、地域の名産品として知られ、「かながわの名産100選」にも選ばれている。津久井のおいしい水の恵みも味わいに加わり、独特の風味に強いコシがある。遠方から食べに訪れるファンも多い。



SPOT

立ち寄り所



小原宿本陣跡

江戸時代、参勤交代の大名などが宿泊した本陣は神奈川県下に26軒あったが、現在残るのは甲州街道小原宿の本陣のみ。定紋の付いた数層の高い玄関をくぐると、築200年以上という純日本風の豪壮な本陣内部を見ることができる【住所】相模原市緑区小原698-1【開館】9:30～16:00、月曜・年末年始休館、無料



国指定の寸沢嵐石器時代遺跡。縄文後期と推定される住居跡だ。津久井湖と相模湖の間に位置する。



川尻石器時代遺跡は津久井湖の下流、相模川流域の河岸段丘にあり、敷石住居の遺構などが見られる。

田名向原遺跡や勝坂遺跡から、相模川沿いを上っていくと津久井湖へと辿り着く。その周辺にも先史時代の遺跡がいくつ也存在する。津久井湖上流、相模原市緑区の史跡寸沢嵐石器時代遺跡は昭和3(1928)年に発見された柄鏡形敷石住居跡である。

東西約5・1メートル、南北約4・5メートルの楕円形の床に河原石が敷かれ、間に小石が詰められ固められている。中心部に六角形の石囲い炬が設けられ、火を焚いた跡もあった。縄文時代中期末葉(約4500年前)の遺構とされ、津久井湖西側の道路脇に六角形の小屋が建てられ保存されている。

津久井湖下流には、縄文時代中期から晩期の集落跡である川尻石器時代遺跡がある。敷石住居や配石遺構、配石墓群などの礫石を用いた遺構が多く発見され、国指定の史跡になっている。

このように都心にも近い相模原市に、状態のいい先史時代の遺跡がいくつも残っているということは神奈川県

矢上川沿いの高台にある馬絹古墳。玄室、前室、前々室からなる規模の大きい横穴式石室を有する。7世紀後半、この地域を治めた有力豪族の墓と考えられている。県指定の史跡。



多摩丘陵の標高25mほどの台地上にある子母口貝塚。貝類はマガキが約半分を占める。当時、付近は河口の内湾的な状況であったと考えられている。

川崎市の 住宅街に伝わる 縄文時代の貝塚



子母口貝塚の出土品。土器は胎土に繊維を含み底部が尖底。表面は無文土器が多く、文様があるものは口辺部にある。

縄文土器も出土した 川崎の子母口貝塚

多摩丘陵でもっとも古い貝塚の子母口貝塚は、川崎市高津区の住宅街にある。縄文時代早期後半(約7000年前)のもので、「子母口式土器」の遺跡としても有名。子母口式土器は粘土に草を混ぜ、表面に貝殻で引いた線や竹などを巻いた紐を押し付けた文様などが特徴。貝塚からは浅瀬に生息する貝殻も出て、この周辺が入江だったことがわかる。現在は児童公園内に碑が残るのみだが、川崎市市民ミュージアム



川崎市高津区にある橋本宮御遺跡群は古代武蔵国に置かれた後所の跡。7~10世紀の地方政治・行政を知る上で貴重な遺構ということもあり、国指定の史跡となった。

でその歴史や表情を知ることができる。馬絹古墳も宮前区の住宅地内に位置している。直径約33メートルの円墳で高さは4.5メートルほど。複室構造の石室は非常に大規模で、現地案内板で詳細が解説されている。時代は下って、7、8世紀の地方官の実態を伝えるのが、高津区の橋本宮御遺跡群である。古代武蔵国橘樹郡の役所と隣接する郡寺跡から構成される遺跡群は川崎市で初めて国指定史跡にもなった。現在はまだ見学できるような状態ではないが、整備が検討されている。



川崎市市民ミュージアムは博物館と美術館の複合文化施設。子母口貝塚や馬絹古墳に関する展示も。博物館展示室は無料【住所】川崎市中原区等々力1-2(等々力緑地内)【電話】044-754-4500【開館】9:30~17:00、月曜休館

その他おすすめ スポット&情報

半原のぬい糸・ネクタイ

愛川町半原は江戸時代から繊維業が盛んなところ。絹や合成繊維のぬい糸、伝統技法を活かした紋織物ネクタイが「かながわの名産100選」に選ばれている。愛川繊維会館レイナープラザでは手織りや染め、組み紐体験もできる。



相模川ふれあい科学館 アクアリウムさがみはら

相模川に関する生物の展示に留まらず、地域の湧水や小川、水田など、川と人のつながりが学べる施設【住所】相模原市中央区水郷田名1-5-1【電話】042-762-2110【開館】9:30-16:30、月曜ほか休館【入館料】一般390円 <http://sagamigawa-fureai.com/>



JAXA 相模原キャンパス

日本の宇宙科学研究の拠点。人工衛星や解説パネルなどを自由に見学できる【住所】相模原市中央区由野3-1-1【電話】042-751-3911【開館】9:45-17:30、土日も見学可、無料(売店は平日のみ) <http://www.jaxa.jp/about/centers/sagamihara/>



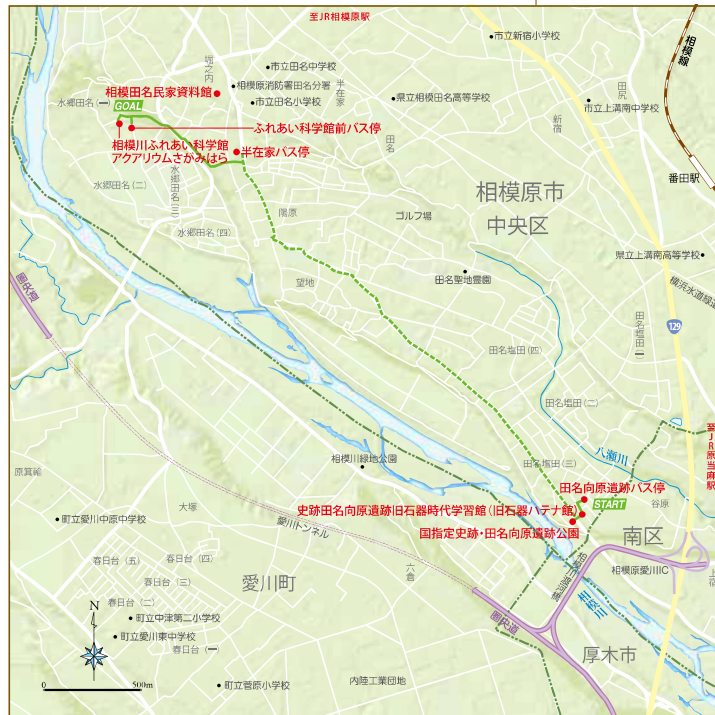
ミニコラム 海や山や川を有する地形が 育んだ神奈川の歴史と文化

関東平野南西部に位置する神奈川県は、東に東京湾、南に相模湾を臨み、西に1500メートル級の山々が連なる箱根と丹沢山地を抱く。北は東京都に続く平野部が広がり、その間を相模川が流れる。山中湖を水源とする相模川は全長約109キロ。富士山麓北部の水を集めながら、丹沢山地からの水も加わり相模湾へと注ぎ込む。古より相模平野に恵みをもたらす、豊かな大地をつくった水源である。箱根火山があることも神奈川の特徴。箱根や湯河原の温泉も有するが、箱根火山は、自然のみならず歴史的文化的にも重要で、一帯は日本ジオパークに認定されている。



巻頭コラム(p6-7)に載せた、神奈川県立生命の星・地球博物館が作成した神奈川県全体のCG画像「宙観図」のオリジナル版。丹沢や箱根の山々を抜き海に臨む神奈川の様子が見える。

散歴歩



Course 6 先史時代の 数々の貴重な遺跡 おすすめコース

～徒歩～バス
JR 原当麻駅 → 田名向原遺跡バス停(田名バスターミナル行き) → 田名向原遺跡公園 → 旧石器ハテナ館 → 田名向原遺跡バス停 → 半在家バス停 → 相模川ふれあい科学館 アクアリウムさがみはら → ふれあい科学館前バス停 → JR 相模原駅